

平成28年度
事業報告

社会福祉法人 むくもり福祉会

I . 法人本部

《総括》

現在の社会福祉法人は特別法人として制度化され、社会福祉事業の主たる担い手として福祉を支えているが、高齢化や家族・地域社会の変容に伴い多様化している福祉ニーズへの対応がこれからもますます重要な課題となってきた。

近年は地域における公益的な活動推進、法人組織の体制強化、法人運営の透明性の確保などについて取りまとめて議論され、公益性・非営利性を徹底する観点での制度改革が行われることとなり、平成29年度には改正された社会福祉法人制度が本格的に始まるため、当法人においても、本年度はこれに向けた見直しと在り方の準備と検証を行ってきた。

時流と共に社会福祉法人の位置付けが大きく変化し「社会福祉法人は社会福祉事業の主たる担い手としてふさわしい事業を確実、効果的かつ適正に行い、自主的にその経営基盤の強化を図り提供する福祉サービスの質向上及び事業経営の透明性確保を図らなければならない」と規定されているため、福祉ニーズへのきめ細かい対応と既存制度で対応できない人々を支援する位置付けとして公益性と非営利性を備えて貢献する体制を求められている。すなわち、これまで以上の高い公益性を有した、法人の在り方そのものを見直す必要性に迫られてきている現状であると言える。

このことから、当法人では今後も法人理念を堅持しつつ、業務を展開する地域内でのサービス専門性を高めながら、業務運営する各施設の個別性を発揮して利用者・家族へのきめ細かなサービスを展開しなければならない。

高齢化による障害者の心身機能の低下に伴い、従来の事業所の体制・人員では十分な支援が行えなくなっているケースもある。障害者自身も日中活動への参加が困難となったり、若年者と同様の日中活動ができなくなっている等の指摘がある。

障害福祉サービス事業所では高齢者に対応するノウハウが乏しく、事業所における支援技術の向上が必要である。高齢化に伴い心身機能が低下した障害者に対応するための技術・知識を高めるため、障害福祉サービス事業所においても心身機能の低下した障害者支援の手法などの研修を取り入れるべきだと考える。さらには、利用者の高齢化や障害特性に配慮しつつ、医療との連携についても留意する必要がある。

重点目標であった「人材の確保と育成」として、福祉・介護職員処遇改善加算も引き続き申請し、職員の処遇向上と意識向上に努めた。職員の定着と人材の育成も同時に、職員の役割と職責の自覚、能力向上など、キャリアパスに対応した人事考課を実施し、意欲を引き出せる評価を行い、職員の定着と人材の育成にも積極的に努めた。

職員においては「施設運営」から「法人経営」への変革の意識も浸透させ、法人には事業継続と公益な取り組みに充てる資金が必要との理解を求めていく。今後は、「公益性な取り組みの一層の推進」により社会福祉法人としての存在意義を果たしていきたい。

決算内容としては前年度と比較して、本業の収支を示す事業活動収支差額は137%と着実に増加しており、プラスを確保している。今後は、地域の福祉ニーズに対応するため、積極的に施設整備計画、専門性の高い人材の育成と確保を進める必要があるため、キャッシュフロー経営を前提として進め、財務体質の健全化を図っていく。

今後とも、利用者・地域に選ばれる社会福祉法人として、時代に即応した福祉サービスを実施すべく、中長期計画に基づき、新規事業の展開や経営改革に取り組んでいきたい。

1. 運営事業

(1) 第二種社会福祉事業

- ア. 生活介護事業所ぬくもりの家（定員40名）
- イ. 生活介護事業・就労継続支援B型事業所ぬくもりワークス（定員60名）
- ウ. 生活介護事業所まるくてワークス（定員60名）
- エ. 共同生活援助事業所アットホーム（定員18名）
- オ. 生活介護事業所ぬくもりの郷（定員20名）
共同生活援助事業所ぬくもりの郷（定員19名）
短期入所事業所ぬくもりの郷（定員6名）
- カ. 相談支援事業所 ぬくもり

(2) 公益事業

- ア. 地域生活支援事業
日中一時支援事業（ぬくもりの家・ぬくもりワークス・まるくてワークス・ぬくもりの郷）

2. 役員会の開催状況

(1) 第1回理事会・評議員会

- ア. 理事会 平成28年5月24日（火）ぬくもりの郷
出席理事6名・監事1名
- イ. 評議員会 平成28年5月24日（火）ぬくもりの郷
出席評議員10名・監事1名

(2) 第2回理事会

- ア. 理事会 平成28年6月1日（水）ぬくもりの郷
出席理事6名

(3) 第3回理事会・第2回評議員会

- ア. 理事会 平成28年12月1日（木）ぬくもりの郷
出席理事6名・監事1名
- イ. 評議員会 平成28年12月1日（木）ぬくもりの郷
出席評議員12名・監事1名

(4) 第4回理事会・第3回評議員会

- ア. 理事会 平成29年3月30日（木）ぬくもりの郷
出席理事6名・監事2名
- イ. 評議員会 平成29年3月30日（木）ぬくもりの郷
出席評議員13名・監事2名

(5) 監事監査 平成28年5月12日（木）ぬくもりの郷会議室 出席監事2名・立会理事2名（理事長・鈴木理事）

(6) 第1回評議員選任・解任委員会

- 平成29年2月10日（金）ぬくもりの郷会議室
出席委員3名
立会理事1名（常務理事）

3. リスクマネジメントの状況（延べ件数）

	ぬくもりの家	ぬくもりハウス	まぐろハウス	アットホーム	ぬくもりの郷	他	計
ヒヤリハット事例	8	20	10	7	18	2	65
事故報告	4	9	22	3	26	1	65
苦情報告	7	3	3		2		15
虐待事例	2	1					3

4. 第三者評価の受審状況

全事業所において、福祉サービス第三者評価の受審を行った。自己評価とともに要改善とされた事項は、速やかに改善に取り組んでいる。

5. 職員研修の実施状況

法人主催の研修として新規採用職員を対象とし、事前研修（3月に実施）を3日間、事後研修（4月～10月の業務後に実施）を計12回行い、新規採用職員の職務に対する意識の向上や知識の定着を目指し、早期戦力化を図った。研修の講師は中堅・ベテラン職員が務め、知識や技術の再確認をするとともに、ティーチングスキルの向上を図った。

6. 会報の発行

法人の会報を発刊し、施設の内容などの紹介を行い、地域住民の理解を深めるよう努めた。

（1）発行回数 年2回

（2）発行部数 1,100部

（3）配布先 保護者・手をつなぐ親の会会員・福祉関係施設・行政機関
ボランティア団体・北明治連合町内会・赤松町内会・池浦町内会
学校等

7. 職員の状況（正規職員）

（1）採用と退職状況（人）

	28年度末の職員数	28年度採用／退職		27年度採用／退職	
男	28	2		5	2
女	19	2	2	5	3
計	47	4	2	10	5

（2）有給休暇取得状況

勤続年数	～1年	1～3年	3～5年	5～10年	10～15年	15～20年	20年～	平均
取得率（％）	60.0	87.7	84.4	50.0	60.0	55.0	58.6	64.4
取得日数（日）	3.0	9.5	11.6	9.4	12.0	11.0	11.7	9.9

8. 借入金の状況

(1) 福祉医療機構からの借入状況（平成29年3月31日現在） 単位：円

借入目的	借入年度	借入金額	平成28年度償還状況	借入残高
まるくてワークス施設整備	17年	30,000,000	元金1,500,000 利息 199,500	13,500,000
ぬくもりの郷施設整備	24年	80,000,000	元金4,032,000 利息 829,500	64,176,000
ぬくもりの郷Ⅲ施設整備	27年	30,000,000	元金2,016,000 利息 211,050	27,048,000
計		140,000,000	元金7,548,000 利息1,240,050	104,724,000

(2) 借入金の償還財源の状況

単位：円

区分	金額	内 訳
元利償還金(平成28年度)	8,701,530	元金7,548,000 利息1,153,530
財 源		
自己資金	6,289,530	本部会計
補助金	2,412,000	愛知県（民間社会福祉施設運営費補助金）
平成29年度償還予定額	8,701,530	元金7,548,000 利息1,153,530

9. 寄付金の状況

(1) 事業活動による収支の部

	本部	ぬくもりの家	ぬくもりワークス	まるくてワークス	アットホーム	ぬくもりの郷
ぬくもりの家保護者会	2,010,000	66,612				
ぬくもりワークス保護者会	2,411,000					
まるくてワークス保護者会	3,153,000			10,000		
ぬくもりの郷保護者会	8,122,000					
保 護 者	200,000					
企 業	30,213		18,600			11,573
団 体				65,000		
個 人		30,000	58,633	10,000		50,000
計（円）	15,926,213	96,612	77,233	85,000		61,573

※愛知県共同募金会様（マイクロバス助成）・柵木守様（時計台）

II. むくもりの家

《総括》

法人理念のもと、「本人中心」「権利擁護」を大切に支援を行った。また、個別面談においては「聴くことこそ最大の権利擁護」という姿勢で傾聴を重視してニーズ把握に努めた。ただ、日々現場での直接支援に追われ「今、目の前で起きている局面」への対応で支援員は精一杯である傾向は否めない。そのため個別支援が重要なことは全体で理解しているが、個々の支援についてのスタッフ全員の情報共有において課題があることが明らかになった。質の高い個別支援計画が大切であることは自明の理であるが、それ以前に「スタッフ間の合意形成」のための時間をしっかりとって全員で決める、決まったことは行うという基本に立ち返る必要がある。

また、第三者評価機関が実施した家族向けのアンケート調査においても「情報共有がきちんとされているか」「本当の意思決定支援になっていない」「親の思いと施設の思いが違う」旨の回答もあり、「本人中心」を大切にしながら家族の思いとのズレは現実的にある。

職員間においても本人・家族に対しても「聴いて」「共感して」「行う」という基本的なことの徹底でよりよくなっていくはずだ。

《生活介護事業》

1. 重点目標に対しての総括

以下、事業計画における「重点目標」について常勤職員へのアンケートをもとに総括する。

(1) 権利擁護意識の向上

ア. ミーティングや研修を通して権利擁護の意識が高まったか

頻回に行ったクラスごとのミーティングにおいて本人のニーズを担当者間で確認し、「本人中心」を意識して活動に活かすことができた。また、希望者は権利擁護研修に参加し、その内容のポイントを周囲に発信した。虐待に関しては支援方法について匿名の通報が一件あった。これについては支援方法以前のクラスを越えての情報共有には課題が明らかになった。また、事業所側からの通報も2件あった。これは「虐待かもしれない」というレベルでの通報で、「虐待に関しては通報ありき」という法の理念がスタッフにも浸透してきていると思われる。

イ. 本人や保護者の思いを十分聴くことができたか。また、聴いた上で本人や家族のニーズを日中活動に活かすことができたか

個別面談等で家族のニーズを聞き取り計画や活動に反映させた。ただし、家族の思いと支援者側の思いにギャップがある部分もあった。

ウ. 外部の方に対して権利擁護の考え方を伝えたか

ボランティアや実習生、見学者に対して折に触れて「本人中心」「権利擁護」「虐待防止」について伝え続けた。

(2) 安心感が持てる体制の構築

ア. 個別支援計画は「本人中心」「ストレングスに着目」を意識して作成できたか。また実際、個別支援計画書はそのようになっているか
ストレングスを意識して作成はしているが実際の計画書においてすべてがストレングスに触れられているわけではなく、さらなる意識向上が求められる。

イ. インフルエンザ等の感染予防に努めたか。また予防の取り組みが効果的であったか

感染予防には積極的に取り組み、インフルエンザ流行の季節も利用率はほとんど下がらなかった。ただし、年間を通しての利用率は目標の94%を大きく下回り87%であった。感染症以外の健康上の理由や家庭の事情等で欠席しがちな利用者が増えたためである。

ウ. 活動プログラムにおいて可能な限り「意思決定支援」を行ったか。またその際、「合理的配慮」を意識して実践できたか

可能な限り本人にわかるような伝え方を意識して支援してきた。また、選択や決定の機会をもつようにしてきた。ただし、支援者の考える意思決定支援と保護者の思うそれにギャップがある場合がありさらなる工夫が必要。

エ. 健康増進を図る取り組みを行ったか

八千代病院の理学療法士による定期的な訪問指導を実施した。その助言をプログラムに活かし、本人に合わせた機能訓練ができた。明らかな効果はまだ見えないが、専門家の指導は本人の動機付け、家族からの信頼につながっている。

オ. 積極的に「利用者さんが外に出る」「利用者さんが外部の人と交流する」機会を持つことができたか。また地域とのネットワークを活動に活かすことができたか

日常的に近くの公園に出かけることで歩行やふれあいの機会を持っている。また毎週行われている地域のふれあいサロン「わくわく喫茶」に積極的に参加した。さらにボランティアネット北明治の会の定期的なふれあい訪問や地域のまつり、運動会に参加することで交流ができています。

(3) 人材の育成・支援員のスキルアップ

ア. 毎日の朝礼や終礼でポイントを絞った情報伝達、意見交換ができたか
全員揃うことが少なく、情報伝達において周知徹底に課題が残った。

イ. 新しく始まった「提案制度」をフル活用できたか

「質より量」が大切な提案制度であるが提案数が少なかった。事業所ごとの提案数は公表されていないため不明だが、「提案箱」に提案用紙が投函されている状態があまりなかった。

ウ. ケース会議が支援員のスキルアップにつながったか

ケース会議は行われたがその開催時期がタイムリーではなく、迅速であるべきことがあった。ただ、多様な考え方を交換することで支援スキルの向上にはつながっている。

エ. 実習生（学生）の指導を担当者だけでなくチーム全体で行うことができ

たか

実習記録等の文書については担当中心に常勤職員で行った。また支援現場のOJTは非常勤職員も関わることもできた。このことが実際の人材確保につながるとさらによい。

オ. 法人内他事業所との支援現場の交流を行ったか。またそのことが支援スキルアップにつながったか

ごく一部の職員のみの実施にとどまった。スキルアップには有効な機会なので実行する必要がある。

2. 年間利用実績

月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
在籍者数 (人)	男性	21	21	21	21	21	21	20	20	20	20	20	20	246
	女性	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	21	252
	計	42	42	42	42	42	42	41	41	41	41	41	41	498
出席率(%)		90.8	85.6	89.4	89.6	86.3	89.5	91.6	87.3	86.6	85.1	84.1	79.7	87.1

※1. 在籍者数は初日在籍数

※2. 出席率は在籍数に対する出席率

3. 年間行事

月	日	施設行事				
4	1	新利用者歓迎式				
5	12	健康診断				
	20	ぬくもりんピック				
6	6	いちご狩り				
	23	嘱託医健診（歯科）				
		芋の苗植え→雨天中止				
8	26	納涼夏祭り				
	31	プラネタリウム				
9	3	嘱託医検診（内科）				
	23	お楽しみ会（ボウリング・カラオケ大会）				
10	16	北明治レクリエーション大会				
	23, 30	日帰り旅行（掛川花鳥園、伊賀モクモク手作りファーム）				
	25	芋掘り交流				
11	10. 11	日帰り旅行（大井川鐵道、富士山静岡空港）				
	18	ぬくぬくふれあいコンサート				
12	16	クリスマス会				
1	13	新年会				
2	3	豆まき				
	28	プラネタリウム				
3	2	嘱託医検診（内科）				
月行事	誕生日会	外食実習	合同レク	音楽療法	合同カラオケ	
	サークル活動	体重測定				

個別面談はサービス等利用計画に合わせて誕生日を基準に6ヶ月ごとに実施

4. ボランティア受入状況（延べ人）

区 分	計	区 分	計	区 分	計
一 般	22	大学・専門学校	6	社 協	0
北明治ネット	30	保護司関係	11	民生委員	12
J A青年部	20	高 校 生	9		
音 楽 協 会	7	中 学 生	25	合 計	

5. 実習生受入状況（延べ人）

区 分	計	区 分	計	区 分	計
中 学 生		大 学 生	131	学 校 教 諭	2
専門学校生	20	高 校 生	36	合 計	

《日中一時支援事業》

1. 事業内容

（1）日中における活動の場を確保し、利用者の情緒安定を図ると共に、家族のレスパイトを目的に事業を行った。

2. 年間利用実績（延べ人）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
利用者数	1	3	5	4	5	4	2	0	0	0	0	0	24

Ⅲ. むくもりワークス

《総括》

昨年度と同様に生産活動を主体に「働く場」として安定して働き続けられるよう、また、働く力を伸ばしていけるよう継続的な支援に取り組んできた。3年ごとに見直しされる障害支援区分で、利用者全員支援区分が「3」以上になったこと、高齢化に伴う体力や作業意欲の低下、職員の人的配置など多機能型での運営課題を職員全員で検討した結果、4月から単独の生活介護事業所としての移行準備をしてきた。さらに、安城市虹の家の指定管理を受託したことで、むくもりワークスが主体となり業務等の引き継ぎと運営準備も重なり、後半は慌ただしい日々であった。そんな中3月に匿名の虐待通報があった。虐待内容は「ある利用者への作業や行動を促す声かけが過剰ではないか」と言う内容であった。聞き取り調査後、市役所より口答指導事項を受け、すぐに全職員に周知徹底するとともにケース会議を開き対応を検討し、さらに保護者会でもその旨を報告した。今年度は、毎月課ごとに正職員と非常勤職員のミーティングを行って、利用者への支援方法や健康面など情報共有をしてきたつもりであるが、課題が残った。

出席率は、生活介護89.8%（前年度89.7%）、就労継続支援B型96.4%（前年度95.3%）となり、若干前年度を上回った。工賃支給額は、一ヶ月平均で就労継続B型は29,501円（前年度32,751円）生活介護は10,429円（前年度9,838円）支給となった。作業種目を入れ替えたことで生活介護の収入が増額した。昨年度実施した「サービス満足度調査」の意見から、保護者参観日を実施したところ、施設の雰囲気や作業、昼食の様子がよくわかって良かったととても好評であったので、今年度も計画をしていきたい。また、福祉サービス第三者評価を受審し、評価結果は全職員に周知して今後改善をしていく。

利用者及び家族の状況については、高齢化問題が深刻化している。昨年度は、4名の保護者が亡くなった。ある家庭は母親が亡くなって半年もたたないうちに、今度は父親がお風呂の湯船に入ったままで亡くなっているのを訪問した職員が発見した。同居している息子は、状況がわからないまま3日間過ごしていたようである。親族もいないため、葬儀や今後の生活など様々な問題や課題の対応に苦慮した。また、利用者の重篤な病気発症やてんかん治療、家庭の都合による長期の短期入所利用など長期欠席されるなど、健康面についても心配が出てきている。

日中一時支援は、法人利用者以外の方にもサービスを提供できるよう努めてきた。

1. 事業内容

《生活介護》

- (1) 作業をとおして情緒的な安定を図り、利用者の主体性を育んだ。基本的な社会性や生活習慣を習得できるよう心掛けた。また、自主製品（パウンドケーキ）などを豊田自動織機安城工場や万能工業に、毎月1回昼休憩時間を利用して出張販売に、さらに公民館祭りや福祉センターまつり、福祉の店等に販売活動に参加した。
- (2) 講座活動（生け花、音楽療法、創作、書道）で活動の幅を広げることができ、町内文化祭など作品を出展して地域交流を図った。
- (3) 看護師による血圧測定などを行い健康管理に努めた。

《就労継続支援B型事業》

- (1) 個別支援計画に基づき、個人の特性に合わせた支援を行った。昨年度に続き西三河障害就業センターより講師を招き「就労セミナー」を年2回開催して就労に向けた意識を利用者に促し支援した。
- (2) 地域駐在所の警察官を講師に招き「生活セミナー」を年3回開催し、交通ルールや社会のルールなどについて勉強会を行った。

2. 年間利用実績

《生活介護》

月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
在籍者数 (人)	男性	32	32	33	33	33	32	32	31	31	31	31	31	382
	女性	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	144
	計	44	44	45	45	45	44	44	43	43	43	43	43	526
出席率 (%)		93.3	90.3	92.5	90.3	90.1	93.8	91.5	89.9	88.0	86.0	84.8	87.2	89.8

《就労継続支援B型》

月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
在籍者数 (人)	男性	8	8	8	8	8	8	8	8	7	7	7	7	92
	女性	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	3	36
	計	11	11	11	11	11	11	11	11	11	10	10	10	128
出席率 (%)		100	98.6	99.1	99.1	91.3	92.5	92.1	91.7	97.0	97.3	98.5	100	96.4

- ※1. 在籍者数は初日在籍数
- ※2. 出席率は在籍数に対する出席率

3. 保護者との連携

- (1) 個別支援計画書について、相談支援員を中心に本人・保護者と三者面談を行い、家庭との連携を強化した。
- (2) 前年度実施した「サービス満足度調査」の意見から、保護者の施設参観を実施して、作業を一緒に体験していただいたり、昼食（配食弁当）を食べていただくなど日頃の様子を見ていただく機会を設けた。
- (3) 恋塚まつりに模擬店出店の協力を得た。
- (4) 保護者同士の交流を目的として演歌歌手を招き懇親会を開催、利用者も一緒に歌謡ショーを楽しんだ。

4. 地域との交流

- (1) 赤松保育園児を招待し、じゃが芋掘りを行った。

- (2) 赤松福祉委員と環境保全会と協働で「赤松環境美化ゴミ拾い交流会」を実施した。
- (3) 赤松町内夏祭りや福祉センター・公民館祭り、市内市外の福祉施設や企業の祭り等に参加し交流を図った。
- (4) 「恋塚まつり」や施設活動に多くのボランティアを受け入れ、交流を図った。

5. 年間行事

月	日	施設行事
4	1	始業式
	9	県障害者スポーツ大会（日進市 口論議運動公園）
	12	保護者会総会
5	11	健康診断
	25	避難訓練
6	1	生活セミナー（講師 安城警察署巡查）
	5	全国障害者スポーツ大会北信越東海ブロック大会（三重県津市）
	10	いちご狩り
	22	赤松保育園とじゃがいも掘り交流会
	22	就労セミナー（就労継続B型／講師 西三河障害者就業・生活支援センター）
	23	嘱託医検診（内科）
7	12	保護者会
	31	赤松町内夏祭り
8	10	施設参観
9	10	恋塚まつり
	23	還暦を祝う会
	23	避難訓練
	27	名フィル・福祉コンサート（刈谷市）
10	2	安城市福祉まつり
	13	福祉協会ソフトボール大会（名古屋市守山区 小幡緑地）
	11	保護者会
	27	愛知県歯科検診（生活介護2-B・就労継続支援B型）
	22	安城市福祉体育祭
11	16	日帰り旅行・社会体験（名古屋港水族館）
	24	嘱託医検診（内科）
12	14	赤松町内美化交流会

1	5	初詣			
	10	成人式			
	18	生活セミナー（講師 安城警察署巡查）			
	20・21	赤松町内公民館祭り作品出展			
	25	保護者会交流会（ぬくもりの郷）			
	27	1課保護者説明会（生活介護移行について）			
2	14	保護者会			
	22	就労セミナー（就労継続B型／講師 西三河障害者就業・生活支援センター）			
3	1	お楽しみ会&ぬくもりアワード			
	2	赤松保育園ひな祭り会			
	15	避難訓練			
	16	嘱託医検診（内科）			
	22	生活セミナー（講師 安城警察署巡查）			
	29	就労セミナー（就労継続B型／講師 西三河障害者就業・生活支援センター）			
月行事	音楽療法	生け花	創作活動	書道	体重測定
	血圧測定	外食実習(隔月)			

6. ボランティア受入状況（延べ人）

区分	計	区分	計	区分	計
一般	121	民生委員	10	高校生	82
保護者	6	大学生	3	生け花	16
赤松町福祉委員等	30	恋塚まつり	65	合計	333

7. 実習生受入状況（延べ人）

区分	計	区分	計	区分	計
中学生	1	大学生	85	学校教諭	3
特別支援学校	3	高校生	36	看護専門学校	18
				合計	146

9. 授産事業

(1) 作業指導のねらい

利用者の適応性に応じた作業の技術習得と将来自活すべき社会性を養うこと。

(2) 資源化センター等安城市との業務委託を継続できた。

(3) 工賃の支給額を作業状況、生活態度、対人関係を総合的に評価し決定した。支給基準の見直しを年2回職員会議にて行った。

10. 作業内容（作業別収入）

《生活介護》

取引先	売上高（円）	内容
富士カーボン（株）	821,830	自動車部品の加工
フジイ化工（株）	158,261	エコキャップ選別
タクマ産業（有）	989,865	自動車部品（ウレタン）選別
名鉄百貨店	163,464	販促商品梱包作業
アンジョウハーツ（商工会議所）	159,148	キャップパネル梱包・商品梱包等
安城七夕まつり協賛会	144,000	ペットボトル洗浄・処理
自主製品	247,030	縫製品製造・販売
菓子製造（パウンドケーキ）	793,086	菓子の製造・販売
名刺印刷	41,904	名刺の印刷
アルミ缶販売（安城貿易）	9,360	アルミ缶回収
西三河セルプ	6,004	委託販売
ユニオンサービス・日本ハム	228,410	委託販売（日本ハム、カレンダー）
まるくてワークス商品	9,690	委託販売（かりんとう・珈琲豆）
ナカムラ製菓	716,040	委託販売（せんべい）
安城市（清掃事業所）	113,870	段ボールコンポスト製造・販売
安城市（清掃事業所）	2,935,040	EMボカシの製造・配達
安城市（こども課）	137,052	アサガオ・ゴーヤ苗育成・配達
農作物	87,555	農作物の販売
（有）三立製作所	36,217	自動車部品選別
（株）フォーユー	42,230	ナッツボール袋入れ
グレイシャスビラ安城	1,164,200	お風呂・ベランダ掃除
その他	166,400	七夕短冊・小物袋入れ・タオル袋入れ
合計	9,170,656	

《就労継続支援B型》

取引先	売上高（円）	内容
ミカテック	61,705	軽作業
杉本商会	324,100	販促商品（ゴミ袋）封入作業
安城市（清掃事業所）	11,349,408	ペットボトル仕分け作業
安城市（維持管理課）	47,000	リサイクル自転車の清掃
デンソー（株）高棚製作所	75,000	エコキャップパネル作成
合計	11,857,213	

11. 工賃支給実績

《生活介護》

4月～3月工賃支給額計	6,476,850円
1ヶ月平均工賃支給額	10,429円（1人当たり・賞与含む）

《就労継続支援B型》

4月～3月工賃支給額計	4,395,729円
1ヶ月平均工賃支給額	29,501円（1人当たり・賞与含む）

《日中一時支援事業》

1. 事業内容

（1）日中における活動の場を確保し、利用者の情緒安定を図ると共に、家族のレスパイトを目的に事業を行った。

2. 年間利用実績（延べ人）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
利用者数	23	21	26	25	20	22	21	19	20	16	15	19	247

IV. まるくてワークス

《総括》

安城特別支援学校卒業生1名を迎え、利用者53名での生活介護（生産活動型）事業を行ったが、年度途中で法人内事業所への異動や長期入院による利用不可能のため2名減員した。施設開所より地域交流を目的として開催していた「まるくてBang! Bang!夏まつり」を一旦休止し、代わりに利用者さんに視点を当て「まるくてBang! Bang!バーベキュー」を行事として行った。池浦福祉委員の皆様にも模擬店の協力をいただき、楽しい時間を過ごすことができたと思うが、地元町内会や関係機関からも今年のBang! Bang!まつりはどうなった？いつ？等々問い合わせもあり、まつり自体が地域に浸透していることを痛感した。

日中活動においては、余暇であるサークル活動にフラダンス・フォークダンスを追加し充実を図ったため作業時間の減少に伴い収入の減少を懸念したが、スタッフのスキル・効率性アップにより昨年度同等の収入を得ることができた。また（株）福祉サポートセンターの第三者評価を11月に受審するとともに、利用者満足アンケート実施により昨年度の結果と比較をし、まるくてワークスの「強み」と「弱み」の部分を把握することができた。これらを念頭に、さらなる利用者満足の向上を目指していく。

1. 事業内容

《生活介護事業》

- （1）サークル活動（音楽・書道・絵画・よさこい・N O S S・フラダンス・フォークダンス・ジョギング・サイクリング）を選択・参加をし、相互交流を図るとともに楽しく健やかな日中活動の提供に努めた。
- （2）利用者の主体性を尊重して個別支援計画を作成し、安定した日常生活が営めるよう計画に基づき支援を行った。
- （3）生産活動や自主製品販売等をとおして得た作業収入を工賃・賞与として支払った。
- （4）新たな作業種目（DMの封入・稲徳煙火）を増やし、利用者個々の選択・適応の幅を広げた。

2. 年間利用実績

月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
在籍者数 (人)	男性	29	29	28	28	28	28	28	28	28	27	27	27	335
	女性	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	24	288
	計	53	53	52	52	52	52	52	52	52	52	51	51	623
出席率 (%)		88.2	86.5	89.2	86.9	85.0	88.0	87.1	88.5	88.6	86.7	88.3	87.6	87.6

※1. 在籍者数は初日在籍数

※2. 出席率は在籍数に対する出席率

3. 地域との交流

- （1）新たに「給食交流会」を隔月に行い、池浦町内会・福祉委員・民生委員等々給食を

共に、親睦交流を図った。

(2) 地元町内会行事（敬老会、芸能まつり）や子供会行事に会場として施設を貸与したり、池浦にある天満宮の大祭・納涼まつり・町内清掃に参加をし交流を図った。

4. 保護者との連携

(1) 3ヶ月ごとの保護者会開催 ～ 愛教大教授 増田樹郎 氏 勉強会

安城警察 生活安全課 巡査部長 稲垣愛子 氏

(2) 年2回の三者面談（モニタリング）をとおして利用者本位の支援の連携強化。

5. 年間行事

月	日	施設行事
4	1	入所式（1名）
	12	保護者会総会
	26	そよ風コンサート（ぬく郷）
5	10	健康診断（半田医師会）
6	2	避難訓練
	7	いちご狩り（鈴木農園）
	10	安城警察講話
	16	嘱託医検診（内科 藤井ハートクリニック）
	24	Bang! Bang!バーベキュー
7	12	保護者会
	27	嘱託医検診（精神科 青山メンタルクリニック）
9	6	アンサンブルドルチェ演奏会
	9	高浜高校体育祭
	23	日帰り旅行（南知多ビーチランド）
	27	名フィルコンサート（刈谷）
	30	消火訓練
10	11	保護者会（勉強会）
	22	安城市福祉体育祭（安城市体育館）
11	3	市文教70周年記念コンサート
	10	県フットベースボール大会（名古屋鶴舞公園） 県歯科診療
	17	嘱託医検診（内科）予防接種
	18	ぬくぬくふれあいコンサート（昭林公民館）
	23	池浦町文化祭

12	23	クリスマス会			
1	5	初詣（池浦天満宮）			
	6	もちつき&レクリエーション			
	10	成人を祝う会（3名）			
	20・27	新年会（ボウリング&焼き肉）			
2	3	豆まき			
	8	嘱託医検診（精神科）			
3	29	避難訓練			
	31	年度末反省会			
月行事	お楽しみランチ	サークル活動	体重測定	血圧測定	歩行・レク
	カラオケ	アピタ販売（第2水曜）		市役所販売（年3回）	

6. ボランティア受入状況（延べ人） 前年比97%

区分	計	区分	計	区分	計
一般	234	中高大学生	3	専門学校生	0
池浦福祉委員	4	サークル講師	56	民生委員	12
				合計	309

7. 実習生受入状況（延べ人） 前年比99%

区分	計	区分	計	区分	計
専門学校生	30	大学生	106	養護学校	15
高校生	36			合計	187

8. 授産事業

(1) 作業指導のねらい

利用者個々の能力と適応性に合った作業の技術習得と「はたらく」ことからの喜び・生きがいを実感できるよう支援した。

(2) 工賃の支給額を作業状況、生活態度、対人関係を総合的に評価し決定した。

9. 作業内容（作業別収入）

取引先	売上高（円）	内 容
コーヒー豆	1,212,315	自家焙煎珈琲製造販売
山田製菓	1,514,966	かりんとう・ドーナツ販売
自主製品販売	266,022	布草履・マットなど
サカキバラコーポレーション	107,877	バリ取り
大見工業	522,205	チップソー防錆液添付・箱詰め
ケーエス開発	468,800	ロート
安城市清掃事業所	324,000	土嚢袋
増田煙火	120,235	花火組み付け
安城市指定ゴミ袋販売	586,310	燃やせるゴミ袋等
タクマ産業	699,322	ダクトシール貼り・パッキン
シン英鋼業	7,258	アルミ缶
型善	4,000	ノーパンクタイヤ
稲徳煙火	33,619	花火袋詰め等
玩具	62,650	おもちゃ等販売
セルプ	4,106	共同販売
フジイ化工	20,610	ペットボトルキャップ選別
コミュニティー道路清掃	30,000	池浦町内道路清掃
杉本商会	12,400	新聞店サービス品（袋詰め）
その他	196,184	DM封入・豚・狐置物等
合 計	6,180,479	

10. 工賃支給実績

《生活介護》

4月～3月工賃支給額計

2,585,410円

1ヶ月平均工賃支給額

4,143円（1人当たり・賞与含む）

《日中一時支援事業》

1. 事業内容

(1) 特別支援学校生や在宅又は就労等している障害者の平日の日中における活動の場を提供し、簡単な相談を受けながら情緒の安定と本人の居場所を作るとともに家族のレスパイトを目的に事業を行った。

2. 年間利用実績（延べ人） 前年比59%

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
利用者数	3	5	6	5	5	18	21	18	4	4	5	25	119

V. アットホーム

《基本方針に対する総括》

利用者の新たな絆は出会いがある度に無限につながっていく。こやまホームでは開所して5年の節目の年だった。日頃から笑顔で楽しく過ごせる環境を地域の人たちと作ってきた。「ご近所で暮らしている地域の方たちへ感謝の気持ちを伝えたい」と利用者と世話人が思うようになった。ささやかに数名のご家族（4家族）たちと食事会を計画し楽しいひとときを過ごした。これは、利用者自身がこの地域で安心して笑顔で暮らすことができる支援にもつながっている。

利用者が、ホームで自分らしく安心して暮らせるように、世話人と、日中の事業所、保護者と情報共有してチームで支援を行ってきた。

1. 重点目標に対しての総括

以下、事業計画における「重点目標」について常勤職員へのアンケートをもとに総括する。

(1) 自分らしい暮らしの支援

ア. 個別支援計画に本人の持つストレングスを盛り込むことができたか

支援計画には、利用者のストレングスを活かし、自分ができることを可能な限り生活の場で実現できるように支援をおこなった。

イ. 地域で安心して暮らすことができるよう、地域住民の方々とふれあえる行事を企画したり、地域の行事に積極的に参加できたか

地域のイベント参加においては、池浦町内の盆踊りの練習に参加したりした。

ウ. 季節に応じた食事やイベントを通じて、豊かでぬくもりある生活ができる環境を提供することができたか

安城七夕まつりへ散策しに出かけたり、コロナワールドの温泉に入浴を楽しんだり地域の中にあるお店へ外食に出かけたりした。基本方針の総括にも記したが、地域とふれあう行事も企画した。ホーム内でも、季節ごとのイベントを企画した。利用者の誕生日には誕生者を祝う会を開き、春にはお花見、冬にはクリスマス会などをして利用者の喜びの時間を過ごした。

エ. 利用者の立場に立って支援者自身も「自分が住みたい」と感じられる環境作りができたか

可能な限り本人のペースやリズムに合わせて寄り添った環境作りに努めた。ただ、ホーム生活の流れでは暮らしづらくなった利用者の退居が9月に1名あった。その後、体験利用を経て3月より新しい利用者が利用開始した。

(2) 安心感のある運営体制の構築

ア. 土日稼働に向けて年間を通して研究したか。また前進したか

保護者ニーズの「土日ホーム稼働」について、前年度から引き続きめろんぱん職員の求人を行った。人手不足という状況下、求人チラシ掲載の他、たくさんの方々の協力を得て非常勤職員の確保と育成を行った。1月には土日の日中の利用以外すべて稼働できるようになった。同様に、フルハウスでも「土日ホーム稼働」のため求人を進め10月から実習を開始し、5名の非常勤職員で次年度から平日の運営体制を作ることができた。

イ. 風通しのよいグループホームの環境作りに努めたか

毎週金曜日に行うフェイスタイムというミーティングにより各ホームの世話人が顔を合わせる機会が増えた。また年度末にはアットホーム全体の合同保護者会を開催し、ニーズの把握に努めた。

(3) 人材の確保と育成

ア. 現状の課題把握に努め、改善策を考えていくことができたか

各ホームで改善には取り組んだがアットホーム全体として取り組むという機会が少なかった。

イ. 利用者が安心してチーム支援を受けられるスタッフの育成ができたか

非常勤世話人職員の育成のため、月に一度のミーティングを行い情報共有と支援についての悩みを解決してきた。情報共有についてはフェイスタイムによりできるようになってきたが、スタッフの育成という部分ではまだまだ発展途上であり、今後もミーティングやOJTを通じて取り組んでいかなければならない。

ウ. 自立支援協議会と協働して、グループホーム啓発活動ができたか

安城市自立支援協議会ホーム担当者会と協働して、安城市内のグループホームの啓発とホーム職員人材の募集のための勉強会を開催した。11月に慈恵福祉専門学校の学生に向けてグループホームについての出張講演を行い、2月に安城市内のグループホームの理解を広げるため地域の人たちに向けての啓発を行った。今後も定期的開催をしていく。ただ、この取り組みを知らない常勤スタッフもいて「アットホームとして協働した」という部分において課題が残った。

2. 年間利用実績

月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
在籍者数 (人)	男性	13	13	13	13	13	13	12	12	12	12	12	13	151
	女性	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	4	48
	計	17	17	17	17	17	17	16	16	16	16	16	17	199

3. 住居ホーム（定員18名）

- (1) めろんぱん (利用者4名) 安城市柿碕町
- (2) ホームぬくもり (利用者4名) 安城市大東町
- (3) フルハウス (利用者4名) 安城市池浦町
- (4) こやまホーム (利用者5名) 安城市新田町

VI. ぬくもりの郷

《総括》

ぬくもりの郷は、利用者の生活を総合的に支援することを目的とした事業所であり、本来別の事業である生活介護事業、共同生活援助事業、短期入所事業、日中一時支援事業が有機的に連携できる仕組み作りに努めてきた。生活介護事業は、安定して通えるようカリキュラム等の支援内容の工夫に努め、年度途中1名の増員と月単位で入院された利用者があったが、出席率は92.4%の利用となり、前年比4.6%の増となった。

生活介護事業所の他の事業も、支援内容、職員の勤務シフト等も一定の形になってきたと思われ、利用者の安定した利用につながっている。今後はその利用者増加に伴うサービスの質の低下を招かないよう、利用者満足度を常に意識しながら、基本理念に基づいた支援体制の充実をさらに図りたい。

《生活介護事業》

1. 事業内容

- (1) 適切な方法により、利用者の有する能力、置かれている環境及び日常生活全般の状況等の評価を通じて利用者の希望する生活や課題等の把握を行い、利用者が自立した日常生活を営むことができるように支援する上での適切な支援内容を検討した。

また、利用者の心身の状況、置かれている環境等に照らし、利用者が自立した生活を営むことができるよう定期的に検討するとともに、必要な支援を行った。

家族との連携を強めていくために、年2回の個別面談を実施したり、必要に応じて個別の相談援助・通院支援を行った。

- (2) 利用者が自立した日常生活又は社会生活を営むことができるよう、排泄及び食事の介護、入浴、創作的活動の機会の提供を適切かつ効果的に行うよう努めた。

入浴においては、利用者の健康状態への配慮、利用者・家族の意向を尊重しながら、サービスの提供に努めた。

グループホームⅡ棟での胃腸風邪の流行により、1月に2日間の生活介護事業所の閉鎖を余儀なくされ、利用者、家族に迷惑をかけてしまった。インフルエンザ同様、感染性の予防にはより一層配慮していきたい。

創作活動においては、11月に昨年に引き続き障害者アート展（～あいちアール・ブリュット展～）に応募し、3月に市民ギャラリーにて作品展（ぬくもりの郷作品展）を単独開催し多くの来場者に作品を見てもらうことで、利用者の創作意欲の向上と自信につながる事ができた。

- (3) 地域との結び付きを重視し、6月に感謝イベントの開催、地域交流ひろばの営業を通じての地域交流、地元中学生の職場体験を受けるなど地域との交流の裾野を拡げるよう努めた。

2. 年間利用実績

月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
在籍者数 (人)	男性	9	9	9	9	9	9	10	10	10	10	10	10	114
	女性	5	5	5	5	5	5	5	5	5	5	6	6	62
	計	14	14	14	14	14	14	15	15	15	15	16	16	176
出席率 (%)		93.2	93.2	94.8	94.6	90.1	95.5	95.6	95.5	93.7	78.6	91.9	91.8	92.4

※ 1. 在籍者数は初日在籍数

※ 2. 出席率は在籍数に対する出席率

3. 年間行事

月	施設行事				
5	健康診断 (16)				
6	いちご狩り (1) 歯科検診 (2) 感謝祭 (5)				
7	電車利用体験 (26)				
9	福祉コンサート (27)				
10	日帰り旅行・ラグーナ蒲郡 (28)				
11	アールブリュット展出品・見学(18)内科検診・インフルエンザ予防接種(18)				
12	ボッチャ大会 (17) ・クリスマス会 (23)				
1	新年会・ボウリング・カラオケ (13)				
3	ぬくもりの郷作品展 (2/28-3/5) 内科検診 (28)				
月活動	誕生日会	外食	チャレンジスポーツ	アート書道	音楽
	リラクゼーション				

4. ボランティア受入状況 (延べ人)

区分	計	区分	計	区分	計
一般	23	大学・専門学校	18	サークル講師	6
民生委員	11			合計	58

5. 実習生受入状況 (延べ人)

区分	計	区分	計	合計
社会福祉士実習	49	介護等体験実習	98	147

《共同生活援助事業》

1. 事業内容

(1) 利用者が自立を目指し、地域において共同生活を営むことができるように個別支援計画を作成し、それに基づき世話人等より生活する上で苦手な部分（食事や健康管理等）の支援を受け、安心して生活できるよう努めた。

家族との連携を強めていくために、グループホーム屋外で利用者、家族、職員との懇親バーベキューを行い、親交を深めた。

年2回の個別面談を実施し、必要に応じて個別の相談援助・通院支援を行った。また、安城市や他事業所、相談支援事業者と連携を取り総合的なサービス提供に努めた。

前年度Ⅲ棟の増築を行い、定員を7名増員し19名とした。定員増に伴い、世話人を2人体制から3人体制として安心・安全な生活を確保に努めた。入念に家族と連携をとり利用者一人ひとりに合った利用方法に配慮したこともあり、安定した利用につながった。

反省として、1月にⅡ棟で胃腸風邪の罹患した利用者への対応の不手際により、ほぼ全員の男性利用者が罹患してしまうということがあった。衛生面の管理、嘔吐物の処理などを徹底し、再発防止に努めたい。

(2) 地域とのつながりを大切にするため町内会に加入し、町内ふれあい夏まつり、町内運動会、町内一斉清掃、防災訓練等の地域が開催する行事に積極的に参加するなど地域住民と理解を深めるよう努めた。

2. 年間利用実績

月		4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
在籍者 数 ①	男性	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	12	144
	女性	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	7	84
	計	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	19	228

《短期入所事業》

1. 事業内容

(1) 居宅において介護を行う者の疾病その他の理由により、短期間の入所を必要とする利用者に対し、その利用者の身体その他の状況及びその置かれている環境に応じて必要な支援を行った。

主には「家族の入院」「家族の不幸」などの緊急時対応と「将来に向けて宿泊訓練がしたい」という希望、さらには「家族の介護負担の軽減」のニーズがあり、なるべくニーズに応えるよう努めた。

- (2) 年間をとおして土曜日・日曜日とも実施をし、前年比108%の利用があった。前年と比較して増えた要因としては、保護者の入院に伴う長期利用のニーズに対応したこともあげられる。
- (3) グループホームとの併設型であるため、グループホーム利用者の生活の安定を優先し、受け入れも安全面を十分に配慮するように努めた。
- (4) 利用者の意志及び人格を尊重し、常に利用者の立場に立ってサービスの提供を行うことができるよう、事前に施設への訪問等を行い利用者の状況を把握に努めた。

2. 利用実績（延べ人）

事業所名	ぬくもりの家	ぬくもりワークス	まるくてワークス	ぬくもりの郷	一般	計
利用者数	152	103	82	11	5	413

《日中一時支援事業》

1. 事業内容

- (1) 日中における活動の場を確保し、利用者の情緒安定を図ると共に、家族のレスパイトを目的に事業を行った。
- (2) グループホームの365日化に伴い、年間をとおして土曜日・日曜日とも実施をし、前年比137%の利用があった。前年と比較して増えた要因としては、保護者の入院に伴う長期利用のニーズに対応したことがあげられる。引き続き、利用者ニーズの把握、職員間の連携、支援体制の確立に努めていく。

2 利用実績（延べ人）

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	計
利用者数	223	200	188	214	202	199	226	189	200	148	166	149	2,321

VII. 相談支援事業所 めくもり

《総括》

めくもりの家・めくもりワークス・まるくてワークスの3事業所で行ってきた相談支援事業を1事業所に統合して2年目、平成28年度は正式に専従の相談支援専門員2名を配置してスタートした。前年度は専従の相談支援専門員が1名だったため、サービス等利用計画の作成とモニタリングという最低限の業務を遂行することで精一杯の状況であったが、2名になったことで利用者一人ひとりの状況を精査することができ、サービス担当者会議を実施する回数も増え、より利用者の状況に合ったサービス等利用計画の作成及びモニタリングを実施することができた。また、事案によっては速やかに基幹型相談支援事業所と協同することでより多くの知恵や情報を出し合い、事態の改善に努めてきた。

しかしながら、困難事案も増えてきている中、専従とは言え2名の相談支援専門員で担当利用者数が230件余という状況は、他の相談支援事業所と比較しても圧倒的に多いことに変わりはない。利用者一人ひとりに対して、よりきめ細かな計画の作成及びモニタリングを実施し、また突発的な事態に対応していくためにも、相談支援体制のさらなる拡充が望ましい。

今後の課題としては、①相談支援専門員としての資質向上、②一筋縄では解決に至らない困難事案に対して利用者及び家族と丁寧に関わりながら事態の改善を図っていくこと、③引き続き基幹型相談支援事業所や他事業所と連携していくこと等が挙げられる。

1. 契約者数（人）

		平成28年3月末	平成29年3月末
法人内利用者①		155	151
内 訳	めくもりの家	38	36
	めくもりワークス	54	52
	まるくてワークス	48	47
	めくもりの郷	14	15
	アットホーム	1	1
法人外利用者②		88	83
合計（①+②）		243	234

（1）変動理由

ア. 法人内利用者

- ・法人外事業所に移動（2名減）※うち1名は現在も措置入所中
- ・市外の入所施設に入所（1名減）
- ・家族に意向により、基幹型相談支援事業所に変更（1名減）

イ. 法人外利用者

- ・本人都合により、福祉サービスの利用を終了（7名減）
- ・法人内から法人外事業所へ移動（2名増）

(2) 利用者の状況

前年度同様、障害種別は知的障害に限らず身体障害（肢体不自由・内部障害・聴覚障害等）・精神障害（うつ病・パニック障害等）など多岐にわたっている。

活動地域は、法人外日中系サービス事業所だけでも市内18事業所、市外（岡崎市・高浜市・知立市・豊田市・西尾市）8事業所の利用者を担当した。また、日中系事業所を主に利用して生活している利用者だけでなく一般就労している利用者も多く、主に生活面でのサービス利用により生活と安定した就労を支えている。